

留学白書 2022



2023.6.30

留学支援共同利用センター

『留学白書 2022』について

東京外国語大学が2014（平成26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプB:グローバル化牽引型）に選定され、9年経ちました。申請で掲げた留学に関する目標は、学生が卒業までに一人2回留学する、「留学200%」です。その目標を達成するために、本学の学生がどのような留学を行っているのかを確実に把握することが必要となり、本白書の作成が始まりました。

その目的の下、本学の留学状況をまとめた留学白書も9冊目となりました。2022年度は、COVID-19のパンデミック影響下ではありましたが、短期留学も再開し、派遣人数はパンデミック以前の水準に近い状態まで戻ってきました。一方で、ウクライナ情勢の悪化により、学生派遣を中断したままの地域もあるほか、為替相場における円安の影響もあって、留学を取り巻く環境としては依然として厳しさも残っています。世界的な物価高の傾向は今後も続く予想され、厳しい状況には変わりありませんが、世界を学ぶ本学の学生の留学を推進し、ひとりでも多くの学生が自身にとって望むような留学を実現できるよう支援していきたいと考えています。

なお、本『留学白書 2022』は7章から成っています。I章からVI章が分析編、VII章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2023年6月

留学支援共同利用センター

目次

分析編

I. 留学の種類	6
1. 長期留学	6
①交換留学（学部、大学院）	6
②ダブルディグリープログラム（DDP）	6
③休学留学（学部）	6
④自由留学（学部）	7
⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）	7
⑥長期研究留学（大学院）	7
⑦海外フィールドワーク等（大学院）	7
2. 短期留学	8
① ショートビジット（学部、大学院（修士））	8
② スタディツアー（学部）	8
③ 短期自由留学	8
④ 短期インターンシップ（学部、大学院）	9
⑤ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）	9
⑥ Joint Education Program（JEP）（大学院）	9
3. オンライン留学	9
II. 2022年度 留学状況について（概要・学部生）	10
III. データから見える傾向や課題等について	14
IV. 2022年度 留学状況	15
1. 学部学生（長期・短期総合）	15
①留学者総数	15
②学年別・期間別留学者数	15
③2014年度から2022年度の期間別留学者数の推移	16
④学部別・期間別留学者数	16
⑤学年別、期間別の留学者割合の経年変化	17
2. 学部学生（長期留学）	19
①留学種別別・留学開始年度別長期留学者数	19
②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）	19

③留学種別長期留学者数の推移.....	20
④留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合.....	21
⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移.....	21
⑥留学先地域別・留学種別長期留学者数.....	22
⑦留学先地域別長期留学者数の推移.....	23
⑧留学先国別・留学種別長期留学者数.....	24
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況.....	26
⑩2020年度長期留学者の単位認定状況.....	28
3. 学部（短期留学）.....	29
①留学種別短期留学者数.....	29
②学部別・留学種別短期留学者数.....	29
③学年別・留学種別短期留学者数.....	29
④留学年度別・留学種別短期留学者数の推移.....	30
⑤留学先地域別・留学種別短期留学者数.....	31
⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化.....	31
⑦留学先国別・留学種別短期留学者数.....	32
⑧短期留学者の単位認定状況.....	33
⑨短期留学者の奨学金受給状況.....	33
4. 大学院生（短期・長期）.....	34
①大学院生の長期留学について.....	34
②大学院生の短期留学について.....	34
③大学院生の奨学金受給状況.....	35
5. オンライン留学の状況.....	36
V. 2022年度学部卒業時点での留学状況について.....	37
①卒業生の在学中の長期留学回数.....	38
VI.SGU指標（2023年6月 フォローアップ調査）.....	40
資料編	44

分析編

I. 留学の種類

本学では、長期留学で7つ、そして短期留学で6つ、留学の種類を分類しています。白書では、この13のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

※新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2023年1月1日現在で、本学が学術交流協定を締結している71カ国・地域の231の教育機関のうち、172の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2022年度出発の交換留学では260人中179人（うち7人大学院生）の派遣者が奨学金を受給しており、うち132人（うち7人大学院生）にJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、家計基準や本学での学業成績（GPA）が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

②ダブルディグリープログラム（DDP）

本学と海外協定校との間で、協定を締結し、在学中に本学および協定校の双方で単位を取得し、修了時に二つの学位が取得できるプログラムです。

■ダブルディグリープログラム・さらに詳しく■

2022年度時点で、国際日本学部でセントラルランカシャー大学とのDDP、大学院前期博士課程で、中央ヨーロッパ大学等との共同のHIPSプログラムがあります。

③休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行って留学をするものです。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が可能な留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必要でも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

④自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業(※)」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。

⑥長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学するものです。単位認定はありません。コチューテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチューテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関の双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

⑦海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究活動を実施するものです。

2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

① ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の8つの言語です。

全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	カイロ大学、アイン・シャムス大学、アレキサンドリア大学、アリー・バーバー・インターナショナル・センター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	1年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	2年次冬学期

② スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」を履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

■2022年度に実施したスタディツアー■

- 国連研修プログラム（アメリカ・ニューヨーク） 冬学期
- ウズベキスタン・スタディツアー 冬学期
- マレーシア・スタディツアー 夏・冬学期
- シンガポール・スタディツアー（言語学） 夏学期
- SOASでの移民言語学スタディツアー 冬学期

③ 短期自由留学

大学のプログラムを利用せずに個人的に探してきた短期の留学プログラムや、協定校以外が実施する短期語学研修プログラムに参加するものです。2022年度は、韓国の大邱大学主催の韓国語研修プログラムに複数の学生が参加しました。参加費は大邱大学が負担するもので、本学で学んだ大邱大学の教員からの提案により実現しました。

④ 短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。

■2022 年度に実施した短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）
- FIDR（国際開発救援財団）（カンボジア）

⑤ 日本語教育インターンシップ（大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

2022 年度は、4 名の大学院生を、ベトナム、中国、台湾へ派遣しました。

⑥ Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

3. オンライン留学

新型コロナウイルスのパンデミックにより海外渡航が制限される中、テレビ会議システムなどの IT 技術を利用したオンライン授業が世界各地の大学で実施されています。こうしたオンライン・リモート環境下での留学を「オンライン留学」と呼ぶことにしています。

現地渡航が再開した後も、一部の大学ではオンラインによる授業が実施されているところがあったり、ウクライナ情勢の悪化により早期帰国を余儀なくされた学生が、日本からオンラインで現地の授業を受講したりすることがありました。

本白書では、オンライン留学の実績についても掲載しています。

II. 2022 年度 留学状況について（概要・学部生）

2022 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の実績となりました。長期留学者については、2022 年度に留学を経験した人数（年度内出発者、年度内帰国者、年度内留学継続者）の合計です。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、留学期間を短縮した場合でも、当初の留学期間が長期に分類されるものについては、実際の留学期間に関係なく長期留学として扱っています。（実渡航を含むもののみカウント。オンラインのみは集計対象外。）

また、早期帰国した場合の留学終了日については、学籍異動データ上の留学終了日としています。

Table 1. 2022 年度短期、長期留学者数

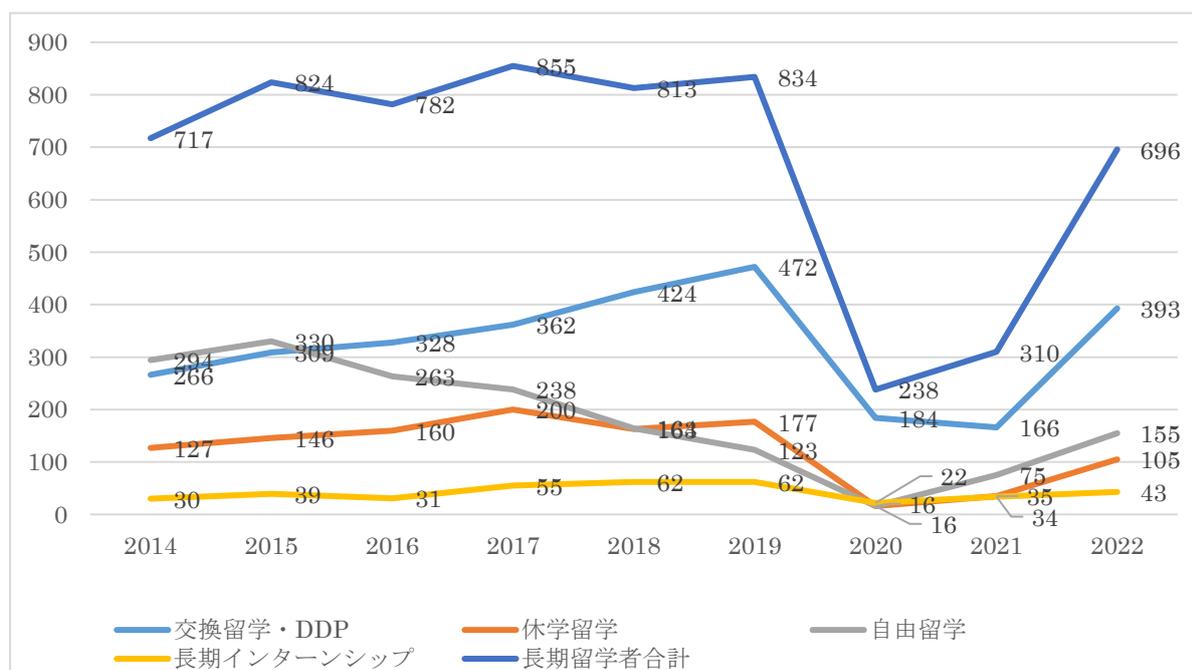
留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	721	696	1,417	3,606

Table 2. 2014-2022 留学者数の推移



留学者総数は、2021 年度と比較すると大幅な増加となりました。これは、2021 年度の夏頃から長期派遣を再開し、2022 年度には短期派遣も再開したためです。コロナ禍以前の 2017 年度から 2019 年度の 3 年間の水準までは回復していないものの、それらに次ぐ留学者数となっており、顕著な回復傾向が見られます。長期留学者数については、コロナ禍以前の数年の実績と比較すると、やや少ない人数ですが、前年度からの出発者が例年よりも少なかった影響だと考えられます。短期留学者については、2018 年度に次いで過去 2 番目に多い人数となりました。ショートビジットプログラムの現地渡航再開の他、例年よりも多くのスタディツアーが実施され、派遣人数の拡大に寄与したと考えられます。

Table 3. 種別別長期留学者数の推移



① 長期留学者数合計について：昨年度よりも大幅増加

2021年度の夏から派遣を再開し、2022年度は全面的な派遣再開となりました。ただし、一部の国では、COVID-19による入国制限措置のため渡航できない状況であった他、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、危険レベルが引き上げられた地域もあり、すべての国・地域への派遣が再開したわけではありませんでした。そうした影響もあり、コロナ禍以前の過去数年間の派遣水準には達していないものの、2020年度、及び2021年度の数から比べると顕著な回復傾向となっています。

② 長期留学 種別別における傾向

交換留学の人数は、2019年度、2018年度に次いで過去3番目に多い人数となっています。これは、協定校の新規開拓を進めてきたことや、個別の協定校の派遣人数枠の拡大に努めてきた結果と考えられます。

休学留学、自由留学に関しては、コロナ禍以前は、自由留学の割合が低下して、休学留学の割合が増加する傾向にありましたが、それが、再び逆転し、休学留学よりも自由留学の人数が多くなっています。これは、コロナ禍の影響によると考えられます。北米やヨーロッパの英語圏などは比較的早い段階から入国制限が撤廃され、留学しやすい環境が整っており、英語圏への語学留学は実施しやすい状況にありました。しかし、語学留学かつ英語の場合は本学での単位認定は難しいため、自由留学を選択する学生が増えたのではないかと推測されます。

長期インターンシップについては、コロナ禍を経て緩やかな回復傾向にあります。在外公館派遣員や日本語パートナーズの公務での渡航者が半数以上を占めています。

給付型奨学金受給状況

以下は、2022年度に留学を経験した学生のうち交換留学、その他で分けた場合の受給状況となります。例年通り、交換留学の学生は多数が何らかの奨学金を受給しており、休学等の場合は奨学金受給の機会が少ないことが伺えます。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）

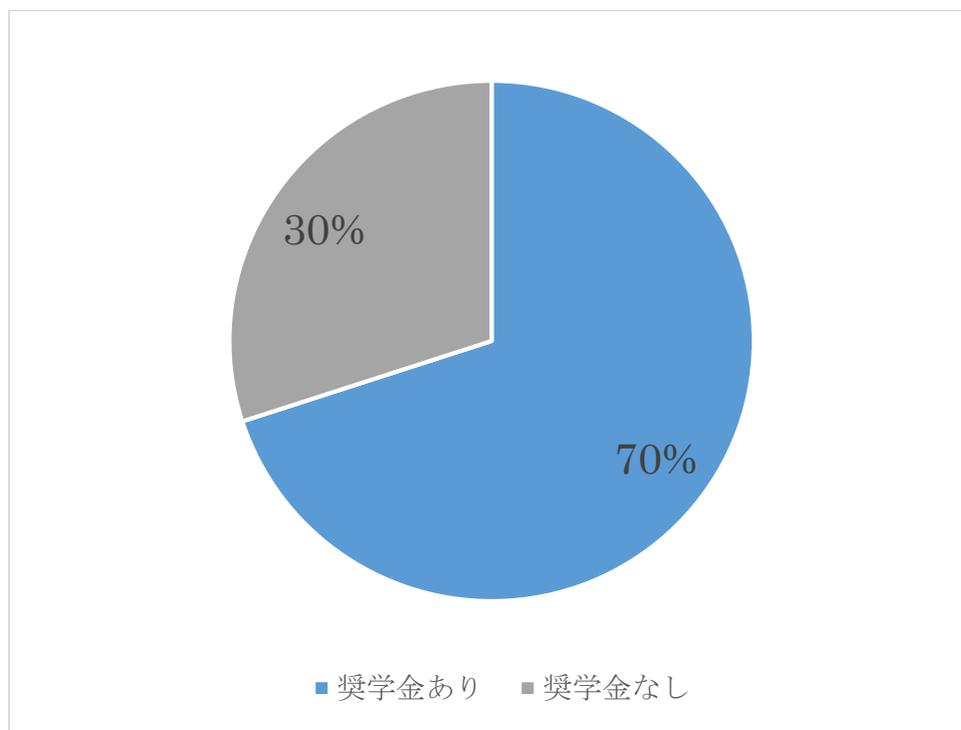


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ※公務は除く）

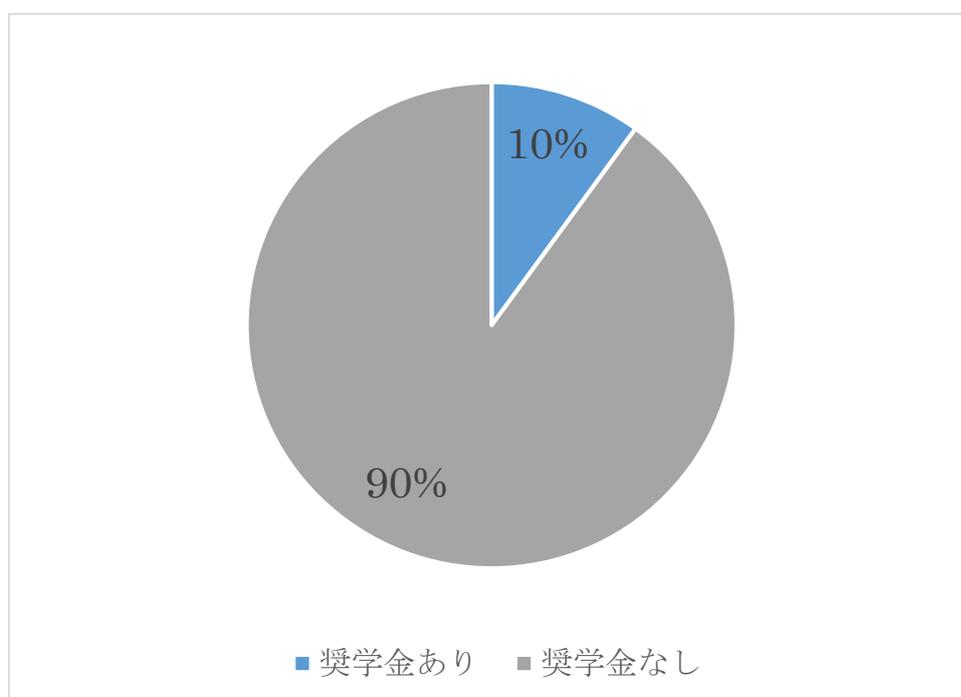
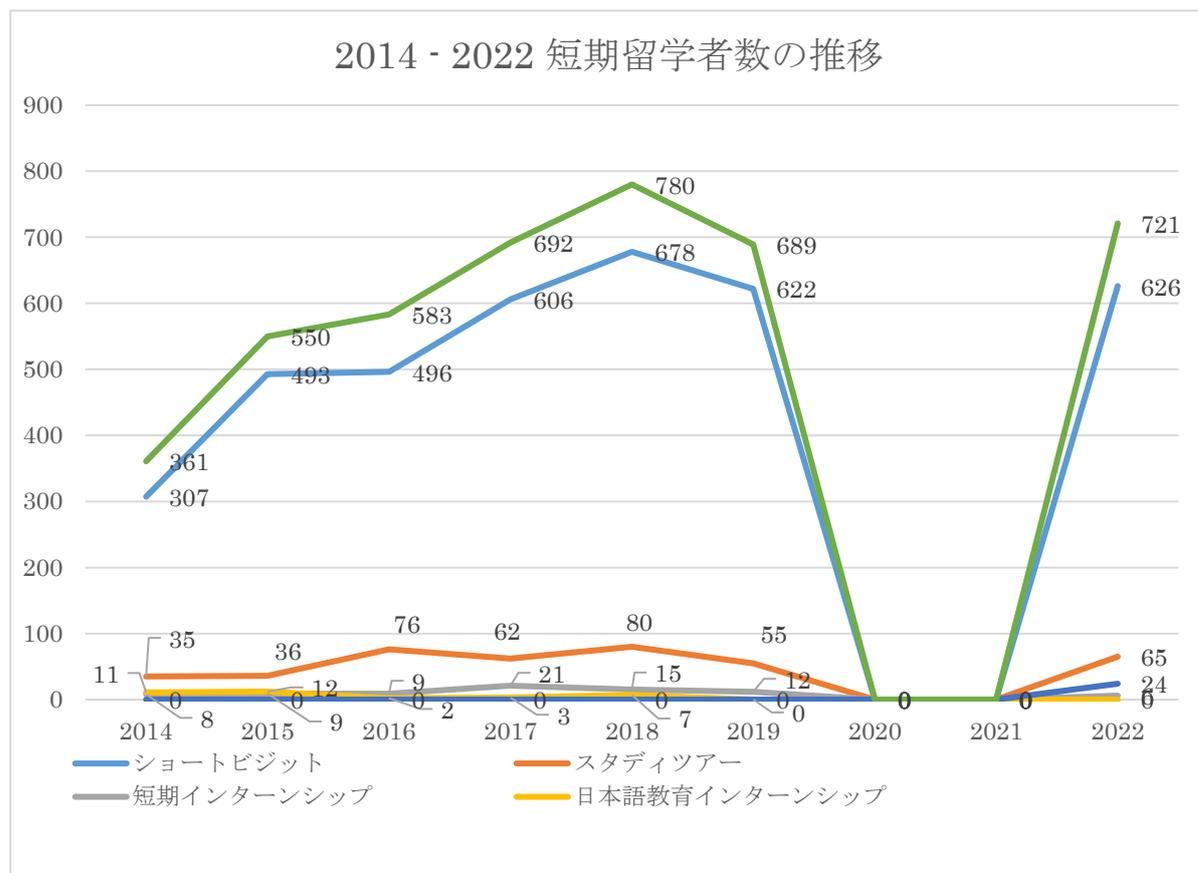


Table 5. 2022 年度短期留学者数



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0	0
短期自由留学	-	-	-	-	-	-	-	-	24
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721

ショートビジットは、2014 年度から毎年順調に参加人数を増やしてきましたが、2020 年度、2021 年度は COVID-19 の影響により派遣することができませんでした。2022 年から現地渡航を再開した結果、2022 年度は 2018 年度に次いで過去 2 番目に多い派遣人数となりました。日本語教育インターンシップは依然として COVID-19 の影響により実施できていません。なお、今年度は、ショートビジット扱いにはならなかったものの、学生が個人的に参加する短期留学が多数あり、カウントすることにしていきます（短期自由留学）。この中には、大邱大学の短期語学研修も含まれており、このプログラムは韓国政府からの支援を受けて、参加者は無償で研修に参加できました。

Ⅲ. データから見える傾向や課題等について

①長期留学の種類について

2022年度の傾向として顕著なのは、自由留学の人数増です。2015年度から2020年度にかけて、休学して留学するケースでは、自由留学が減少し、代わりに休学留学が増加するという傾向が続いていました。2021年度はその傾向が逆転しました。2022年度も引き続き、休学留学よりも自由留学の人数が多くなりました。COVID-19の影響で、留学できる国が限られており、その中では英語圏の国が比較的早期に門戸を開いていたということが影響していると考えられます。英語圏への留学で語学研修の場合は、単位認定が難しく、結果的に自由留学が増えたと考えられます。

②留学の単位認定について

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをしない学生が多い点です。取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています（休学留学の場合は、休学終了後1年以内）。そのため、2020年度に留学に出発した学生の単位認定は、2021年度または2022年度に行われるケースが、ほとんどになります。

留学白書2020に掲載されている交換留学者・休学留学者（2020年度に帰国した学生および出発した学生）の単位認定状況は以下のとおりです。

留学白書2020掲載者の単位認定状況

留学種類	留学者数 (学部生)	うち単位認定有 (2022年度末まで)	単位認定者率
交換留学	184	125	68%
交換留学(オンライン)	45	15	33%
休学留学	16	8	50%
休学留学(オンライン)	3	3	100%

交換留学者のうち約7割の学生が単位の認定を行っています。休学留学者の単位認定率は50%にとどまっています。休学留学者の単位認定者率は年々増加傾向にあるため、引き続き、積極的に単位認定をするよう学生に呼び掛けて参ります。

③大学院生の留学について

大学院生の留学者数については、長期留学者はコロナ前の水準にもどつつあります。短期留学はコロナ前の水準の半分以下となっています。

院 Table 1. 2014年度から2022年度の大学院生の期間別留学者数の推移



IV. 2022 年度 留学状況

1. 学部学生（長期・短期総合）

①留学者総数

2022 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2022 年度留学者総数（学部生）（学生総数は、2022 年 5 月 1 日時点）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	721	696	1,417	3,606
オンライン留学	0	12	12	（参考）

2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 696 人、短期留学者 721 人の、合計 1,417 人です。2021 年度は合計 310 人でしたので、大幅な増加となりました。2021 年度は、COVID-19 のパンデミックの影響により短期留学プログラムの現地渡航は中止となりましたが、2022 年度より現地渡航を再開したため、短期留学者は前年度の留学者なしの状態から、721 名に大幅に増加しました。長期留学プログラムにおいても、前年度の夏から現地渡航が再開となったため、留学者は前年から倍増しました。ただし一部の国では、入国制限等によりオンライン留学となる学生も発生しました。なお、長期留学者数には、2021 年度以前に留学を開始し 2022 年度中に帰国したものと、2022 年度中に出発して帰国したもの、また 2022 年度中に出発して 2023 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。

②学年別・期間別留学者数

2022 年度の実渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。（実渡航者）

Table 6. 学年別・期間別留学者数（太字は 5 割を超えた数）

学年	短期	学生総数中の短期留学者数の割合	長期	学生総数中の長期留学者数の割合	留学者総数（人）	留学者数の割合	学生総数（人）
1	300	38.3%	2	0.3%	302	38.6%	783
2	295	36.6%	31	3.9%	326	40.5%	805
3	95	11.3%	518	61.8%	613	73.2%	838
4	31	2.6%	145	12.3%	176	14.9%	1,180
合計	721	0%	696	19.3%	1,417	39.3%	3,606

2022 年度の実渡航を伴う留学者数は上記の通り 3 年生が大多数を占めています。短期留学では、1、2 年生の参加者が多数を占めていますが、3 年生、4 年生での短期留学者も例年よりも割合が大きくなっています。これは COVID-19 の影響により 1、2 年次に留学に行けなかったことによるものと思われます。長期留学では、3 年生の留学者数が一番大きくなっていますが、これは例年と同様の傾向です。

③2014 年度から 2022 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2022 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

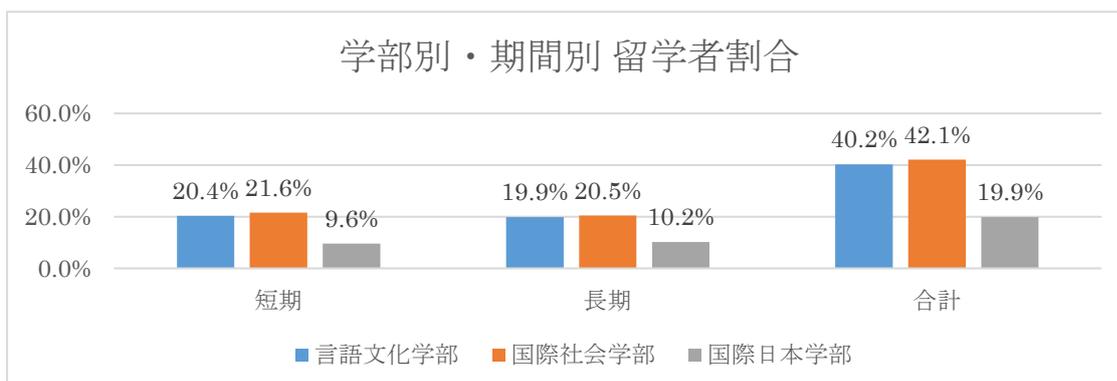
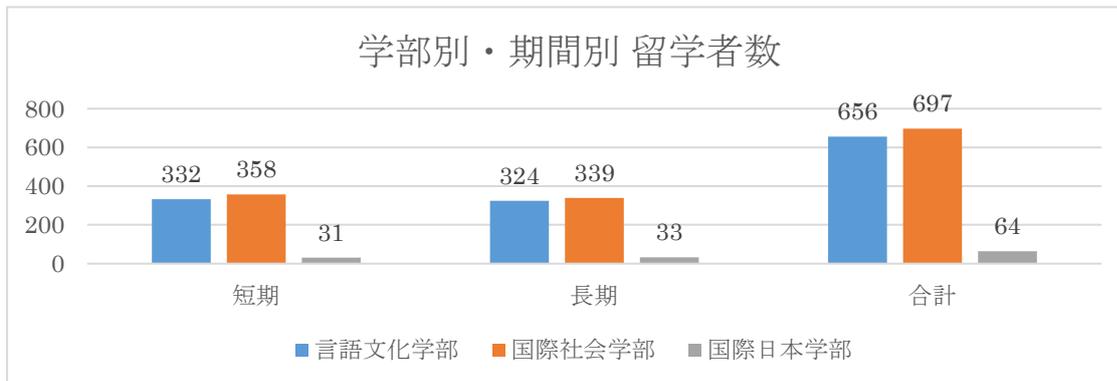
Table 7. 2014 年度から 2022 年度の期間別留学者数の推移



2022 年度は、COVID-19 の影響により落ち込んだ留学者数が V 字回復しているのが分かります。2019 年度以前と同じような水準まで留学者数が増加しました。

④学部別・期間別留学者数

Table 8. 学部別・期間別留学者数

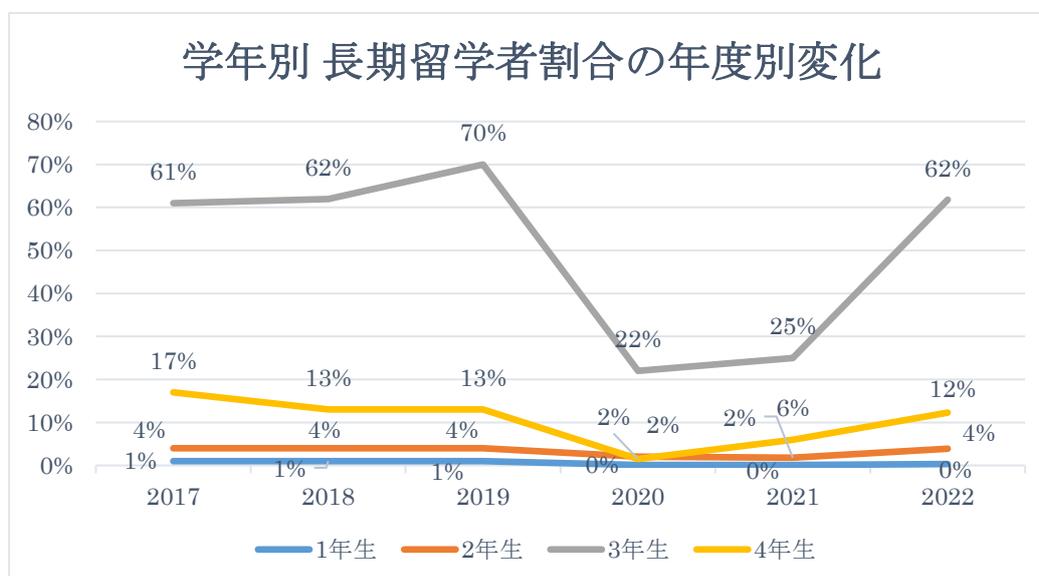


言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、国際社会学部が若干多くなりましたが、それほど大きな差ではなく、2つの学部の間で、留学者数の顕著な違いは見られません。国際日本学部は他の2学部に比べると定員が小さいため留学者割合で比較すると、留学者割合は、言語文化学部、国際社会学部の半分程度となっており、留学する学生が少ないことが分かります。これは、国際日本学部の学生の半数は留学生であることが要因となっていると考えられます。

⑤学年別、期間別の留学者割合の経年変化

2020年度、2021年度の2年間、COVID-19のパンデミックにより現地渡航ができない状態が長く続き、留学を断念する学生も多数いたと考えられますが、その影響が、短期留学の学年別の参加者割合に表れています。具体的には、2019年度までは、短期留学に参加する学生は、1年生と2年生が参加者の大多数を占めていましたが、2022年度は、3年生、4年生の参加者割合が増加しました。これは、2022年度に3年生、4年生だった学生は、1、2年次、もしくは、2、3年次が、海外渡航が極めて困難な状況にあった時期に当たり、本来であれば留学していたと思われる時期に留学が叶わなかったが、代わりに、3年生あるいは4年生で、短期留学に参加することになった学生が多数いたためと考えられます。

Table 9. 学年別・留学期間別の留学者割合の経年変化



⑥専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語による留学者数・率は下記の通りです。厳しい入国制限が取られていた中国、台湾、政情が不安定化しているミャンマーなどの国際情勢の影響を受けていることが伺えます。

Table 10. 専攻言語別・期間別留学者数（留学者の割合が多い順）

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
ベトナム語	58	35	60%	15	25.9%	50	86.2%
トルコ語	63	24	38%	17	27.0%	41	65.1%
ベンガル語	50	24	48%	8	16.0%	32	64.0%
マレーシア語	55	21	38%	13	23.6%	34	61.8%
ポーランド語	65	22	34%	17	26.2%	39	60.0%
ラオス語	47	22	47%	6	12.8%	28	59.6%
朝鮮語	132	33	25%	37	28.0%	70	53.0%
タイ語	74	23	31%	16	21.6%	39	52.7%
カンボジア語	41	7	17%	14	34.1%	21	51.2%
スペイン語	263	43	16%	82	31.2%	125	47.5%
ポルトガル語	111	18	16%	32	28.8%	50	45.0%
ドイツ語	247	46	19%	64	25.9%	110	44.5%
フィリピン語	62	11	18%	15	24.2%	26	41.9%
フランス語	240	37	15%	63	26.3%	100	41.7%
アラビア語	135	37	27%	16	11.9%	53	39.3%
ロシア語	274	57	21%	48	17.5%	105	38.3%
ペルシア語	63	18	29%	6	9.5%	24	38.1%
ウルドゥー語	66	16	24%	9	13.6%	25	37.9%
イタリア語	125	16	13%	31	24.8%	47	37.6%
ヒンディー語	92	21	23%	13	14.1%	34	37.0%
チェコ語	69	18	26%	7	10.1%	25	36.2%
モンゴル語	61	15	25%	7	11.5%	22	36.1%
英語	443	82	19%	73	16.5%	155	35.0%
インドネシア語	98	10	10%	18	18.4%	28	28.6%
中国語	265	30	11%	33	12.5%	63	23.8%
日本語	357	29	8%	35	9.8%	64	17.9%
ビルマ語	50	6	12%	1	2.0%	7	14.0%
総計	3606	721	20%	696	19.3%	1417	39.3%

2. 学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

①留学種別・留学開始年度別長期留学者数

2022年度に留学を開始した学生は470人、うち交換留学・DDPが254人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が216人です。

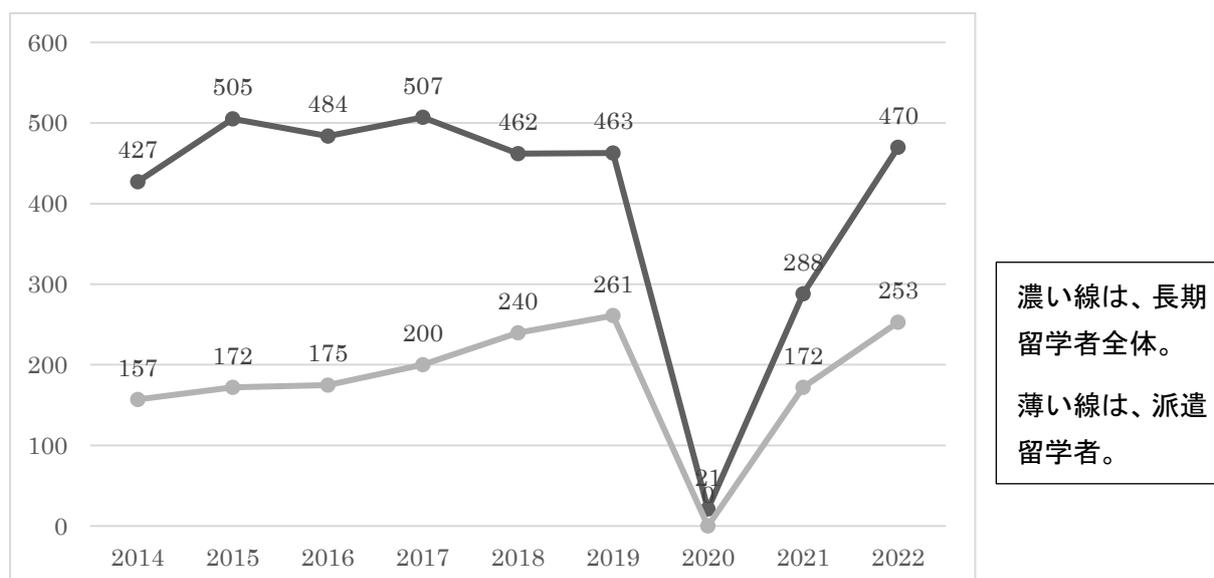
Table 11. 留学種別・留学開始年度別長期留学者数

	～2021年度（前年度）出発者		2022年度出発者		合計
	2021年度以前出発、 2022年度帰国	2021年度以前出発、 2022年度留学中	2022年度帰国	2023年度以降帰国	
交換・DDP	139	0	36	218	393
休学留学	24	0	19	62	105
自由留学	42	1	52	60	155
長期インターン	15	5	6	17	43
合計	220	6	113	357	696
	226		470		

②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。2022年度は、パンデミック前の水準まで回復しました。

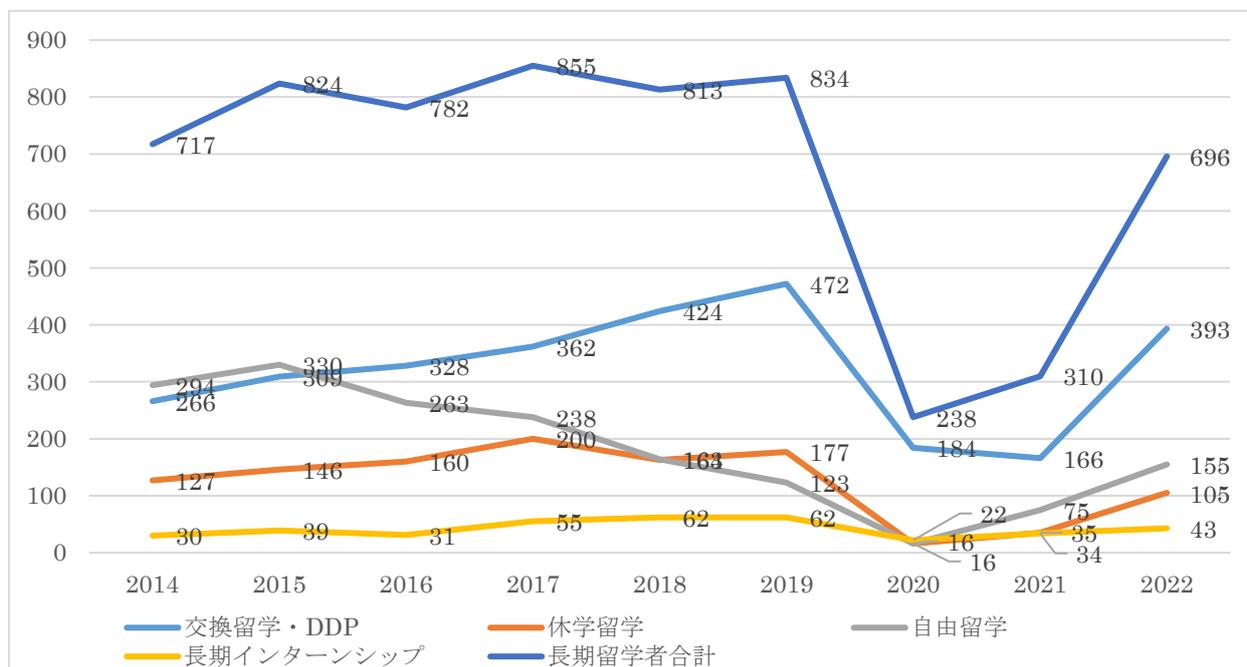
Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）



③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の2014年度からの9年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3. (再掲) 種別長期留学者数の推移



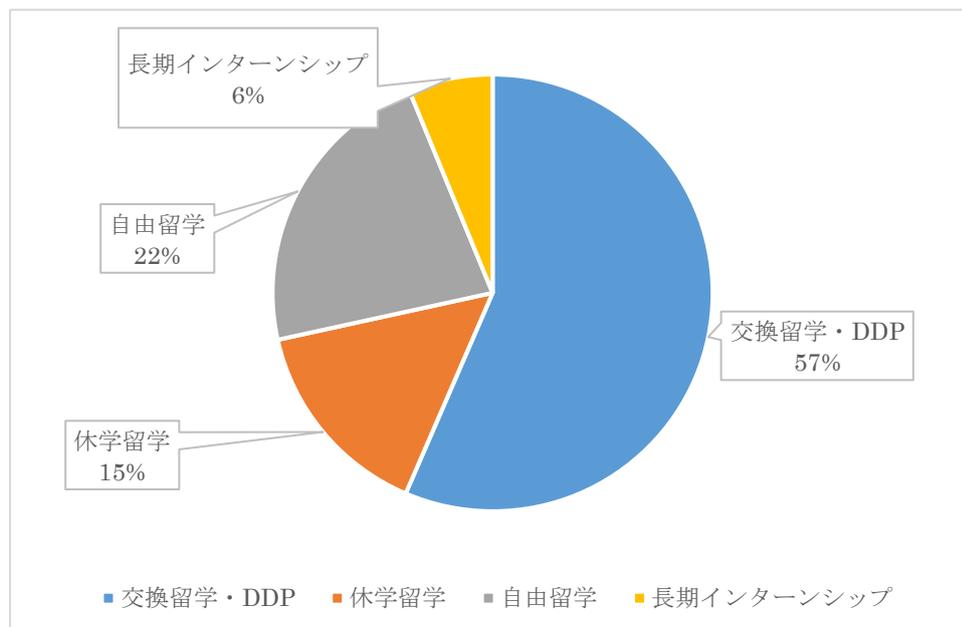
年度	交換留学・DDP	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014年度	266	127	294	30	717
2015年度	309	146	330	39	824
2016年度	328	160	262	32	782
2017年度	362	200	238	55	855
2018年度	424	163	164	62	813
2019年度	472	177	123	62	834
2020年度	184	16	16	22	238
2021年度	166	35	75	34	310
2022年度	393	105	155	43	696

2021年度と比較すると、留学者総数は倍以上に増加しました。交換留学では、一部の国では派遣ができない状況のため、2019年度の水準にはまだ届いていませんが、前年度からは倍以上に増加しています。休学留学、自由留学も前年度比較で、それぞれ3倍増、2倍増となっています。長期インターンシップ参加者も、わずかながら増加しています。

④留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。交換留学・DDPの割合が一番大きく57%を占めています。これは例年通りの傾向と言えます。休学しての留学・渡航については、自由留学が一番大きな割合を占めており、COVID-19パンデミック下で、比較的渡航が容易だった英語圏への語学留学に行く学生が増加したためだと考えられます。コロナ前の傾向では、自由留学よりも休学留学の割合が大きくなっていました。

Table 13. 種類別 長期留学者数の割合

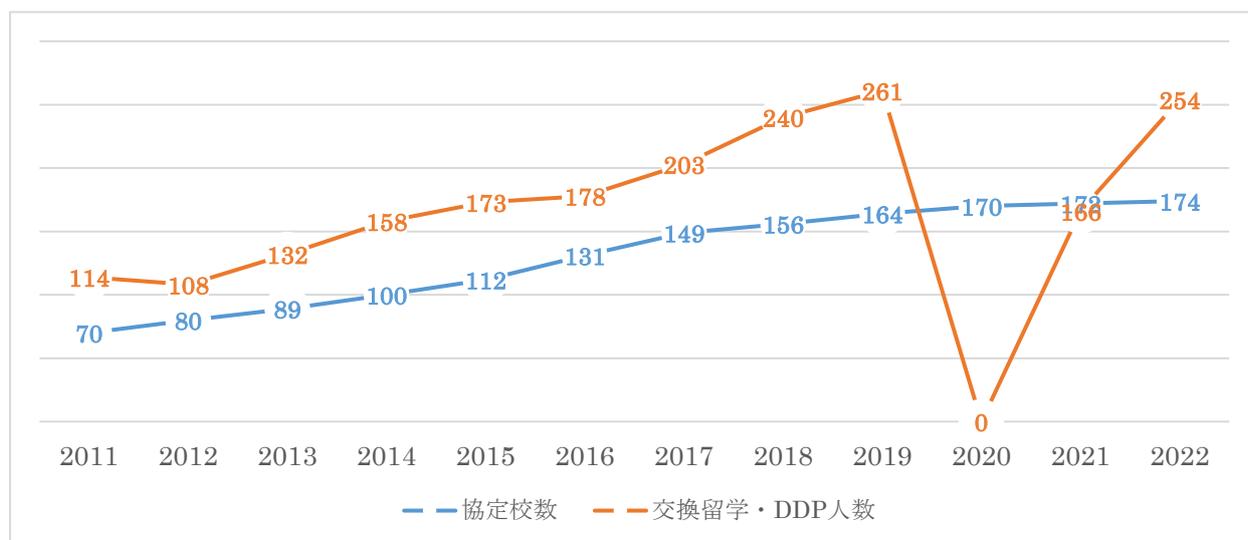


長期留学のうち、本学が特に推奨するのは、「交換留学」ですが、2022年度では、COVID-19の影響もあり、留学者人数ではコロナ前まで回復していませんが、2023年度以降は、交換留学の人数枠の拡大もあり、さらに交換留学の割合が増えることが予想されます。

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

2019年度まで順調に交換留学者数が伸びていましたが、2020年度は派遣を中止したためゼロとなり、2021年度は夏から派遣を再開したため、派遣人数は2019年度よりも100名ほど少ない人数でした。2022年度には、一部の国を除き派遣が全面的に再開したため、2019年度に匹敵する人数となりました。学生交流協定校数の増加傾向はここ数年で緩やかになっていますが、交換人数枠を拡大するなどの交渉を実施しており、2023年度の派遣人数は、300名を超え、過去最大の人数規模になる見込みです。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学・DDP者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。ウクライナ情勢の影響によりロシア・中央アジア地域への留学者数は例年よりも少なくなっています。

Table 15. 留学先地域別・留学種別長期留学者数

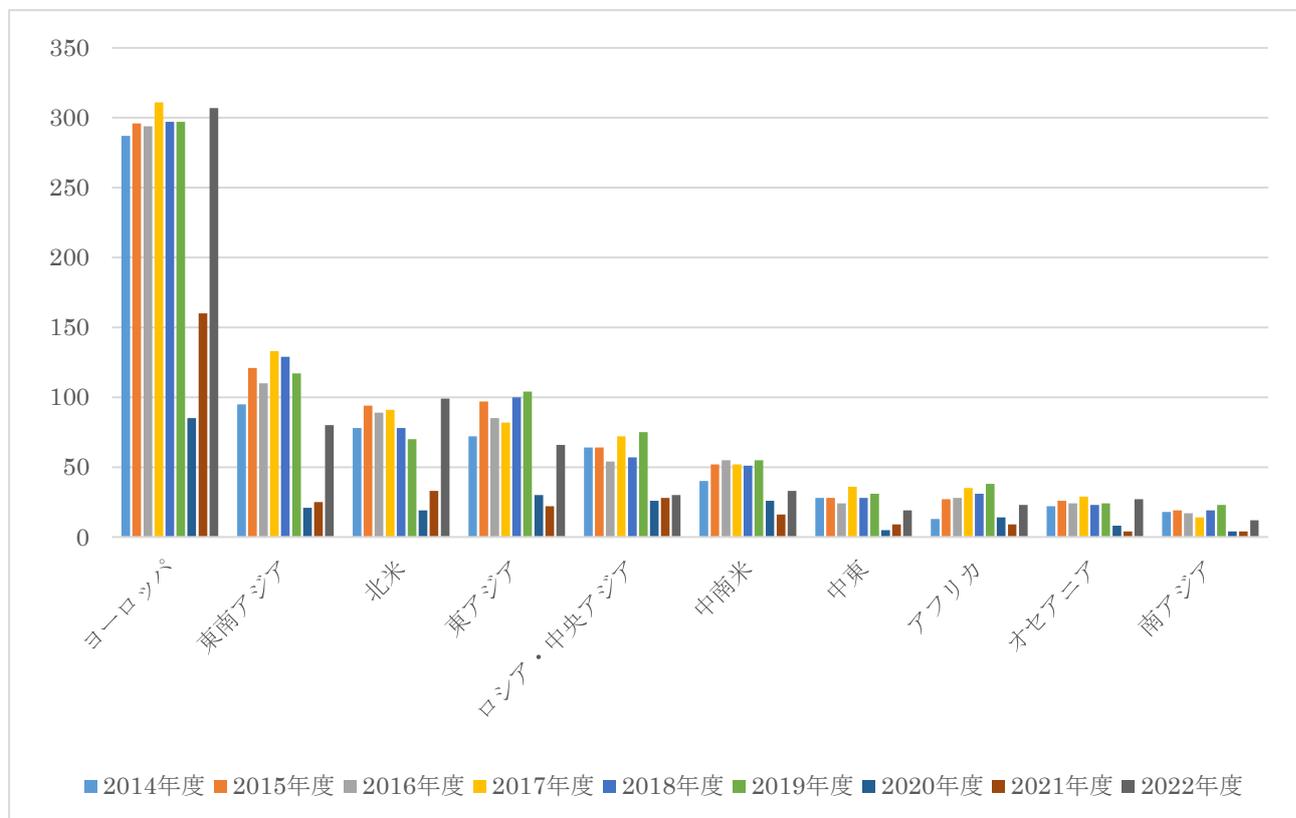
地域名	交換留学 DDP	休学留学	自由留学	長期インターン シップ	合計
ヨーロッパ	215	35	56	1	307
北米	26	17	56	0	99
ロシア・中央アジア	21	8	0	1	30
東南アジア	37	16	9	18	80
東アジア	47	11	5	3	66
中南米	16	9	6	2	33
アフリカ	10	0	4	9	23
中東	11	3	4	1	19
オセアニア	6	6	13	2	27
南アジア	4	0	2	6	12
合計	393	105	155	43	696

2022年度に本学から長期留学をした学生の渡航先地域は、多い順にヨーロッパ、北米、東南アジア、東アジアとなっています。ヨーロッパや北米は、新型コロナによる入国規制を早い段階で緩和しており、そうした各国の措置の差が渡航先人数に影響しています。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16. 留学先地域別長期留学者数の推移



留学先地域名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297	85	160	307
東南アジア	95	121	110	133	129	117	21	25	80
北米	78	94	89	91	78	70	19	33	99
東アジア	72	97	85	82	100	104	30	22	66
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75	26	28	30
中南米	40	52	55	52	51	55	26	16	33
中東	28	28	24	36	28	31	5	9	19
アフリカ	13	27	28	35	31	38	14	9	23
オセアニア	22	26	24	29	23	24	8	4	27
南アジア	18	19	17	14	19	23	4	4	12
留学者数合計	717	824	780	855	813	834	238	310	696

2022年度では、中国への渡航が難しい状況であったこと（東アジア）、ロシア、ベラルーシへの渡航ができなかったこと（ロシア・中央アジア）が留学者数のグラフに反映されていることが分かります。一方で、ヨーロッパ、北米、オセアニアへの留学者が増加しています。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2022年度は留学人数が多かった国としては、カナダ、ドイツ、フランス、アメリカ、イギリス、となっており、北米、ヨーロッパの国々が上位にきています。これらの国は、COVID-19による入国制限等を早期に撤廃したところで、留学のしやすさが留学者数の増加の背景にあると思われま

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学 DDP	休学留学	自由留学	長期インター ンシップ	合計
1	カナダ	5	8	41	0	54
2	ドイツ	40	4	5	0	49
3	フランス	31	4	12	0	47
4	アメリカ	21	9	15	0	45
5	イギリス	37	2	5	0	44
6	スペイン	28	6	7	0	41
7	イタリア	26	2	2	0	30
8	韓国	26	0	0	0	26
9	台湾	11	10	2	0	23
10	オーストラリア	4	5	10	0	19
11	アイルランド	11	1	6	0	18
12	マレーシア	3	4	2	8	17
13	タイ	9	3	3	1	16
14	ポーランド	0	12	2	1	15
15	インドネシア	5	5	1	3	14
16	ベトナム	6	3	2	2	13
16	メキシコ	4	4	3	2	13
18	カザフスタン	7	5	0	0	12
19	トルコ	10	0	0	0	10
19	フィンランド	4	2	4	0	10
19	ブラジル	7	3	0	0	10
19	ポルトガル	9	0	1	0	10
23	スイス	9	0	0	0	9
24	ロシア	8	0	0	0	8
25	インド	4	0	2	1	7
25	エジプト	4	0	3	0	7
27	ウズベキスタン	6	0	0	0	6
27	フィリピン	2	1	1	2	6
27	ブルネイ	6	0	0	0	6
27	マルタ	0	0	6	0	6
27	大韓民国	0	1	3	2	6
32	チェコ	4	0	1	0	5
32	ニュージーランド	2	1	2	0	5
32	バングラデシュ	0	0	0	5	5
32	中国	4	0	0	1	5
36	アルゼンチン	3	1	0	0	4

36	オーストリア	4	0	0	0	4
36	カンボジア	3	0	0	1	4
36	ヨルダン	1	3	0	0	4
36	南アフリカ	2	0	1	1	4
41	オランダ	3	0	0	0	3
41	キルギス	0	3	0	0	3
41	コロンビア	2	0	1	0	3
41	デンマーク	0	1	2	0	3
41	ブルガリア	3	0	0	0	3
41	モンゴル	3	0	0	0	3
41	ルワンダ	2	0	0	1	3
41	中国(香港)	3	0	0	0	3
49	イラン	0	0	2	0	2
49	ケニア	0	0	0	2	2
49	ザンビア	2	0	0	0	2
49	シンガポール	2	0	0	0	2
49	ノルウェー	2	0	0	0	2
49	フィジー諸島	0	0	1	1	2
49	ベルギー	2	0	0	0	2
49	ラオス	1	0	0	1	2
57	アゼルバイジャン	0	0	0	1	1
57	アルメニア	0	0	1	0	1
57	イスラエル	0	0	1	0	1
57	オマーン	0	0	0	1	1
57	ガーナ	0	0	0	1	1
57	カタール	0	0	1	0	1
57	キューバ	0	0	1	0	1
57	ジンバブエ	0	0	0	1	1
57	スウェーデン	0	0	1	0	1
57	スロベニア	1	0	0	0	1
57	チリ	0	0	1	0	1
57	トンガ	0	0	0	1	1
57	ナミビア共和国	0	0	0	1	1
57	ハンガリー	0	0	1	0	1
57	ペルー	0	1	0	0	1
57	マダガスカル	0	0	0	1	1
57	リトアニア	1	0	0	0	1
57	ルクセンブルグ	0	1	0	0	1
57	ルワンダ共和国	0	0	0	1	1
合計		393	105	155	43	696

留学先国・地域数合計：75

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学者391人のうち、給付型奨学金を受給した学生は269人で、68.8%にのぼります。JASSO（日本学生支援機構）および本学の国際教育支援基金による奨学金が多くを占めますが、業務スーパージャパンドリーム財団等の民間財団の奨学金など、様々な支援を受けています。

2022年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターン	合計
日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度	168	0	0	0	168
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	45	0	0	0	45
国際教育支援基金(東京外国語大学)	27	0	0	0	27
ポーランド政府奨学金	0	12	1	0	13
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	7	2	0	0	9
佐藤陽国際奨学財団	5	0	0	0	5
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画	0	2	2	0	4
JASSO、ジュネーブ大学奨学金	3	0	0	0	3
埼玉発世界行き奨学金	3	0	0	0	3
寺浦さよ子記念奨学会奨学金	2	0	1	0	3
バーデン・ヴュルテンベルク州留学奨学金	2	0	0	0	2
Erasmus+ KA107 奨学金	1	0	0	0	1
IBP グローバル留学奨学金(優等生)	0	0	1	0	1
JASSO、電通育英会 海外留学支援	1	0	0	0	1
JASSO、東京海上各務記念財団留学奨学金	1	0	0	0	1
KDDI 財団奨学金	1	0	0	0	1
KDDI 財団奨学金、寺浦さよ子記念奨学会奨学金	1	0	0	0	1
NAWA scholarship ポーランド政府奨学金	0	0	1	0	1
経団連グローバル人材育成スカラーシップ	0	1	0	0	1
公益財団法人ZEN CLUB 奨学金	0	0	1	0	1
高円宮記念クイーンズ大学留学奨学金	0	0	1	0	1
鎗田邦男インダス会南アジア教育研究奨学基金	0	1	0	0	1
南インドアナ日本人補習校南インドアナ大学留学プログラム	0	0	1	0	1
飯塚毅育英会海外留学支援奨学金	1	0	0	0	1
恵国際交流財団	1	0	0	0	1
合計	269	18	9	0	296

なお、長期インターンシップの中には、在外公館勤務16名、および日本語パートナーズ派遣事業10名が含まれており、これらは公務での渡航となり給与等が支給されるものです。奨学金扱いではないため、上記表中にはカウントされていません。

ポーランド政府奨学金は、毎年多くの外大生が受給しています。

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

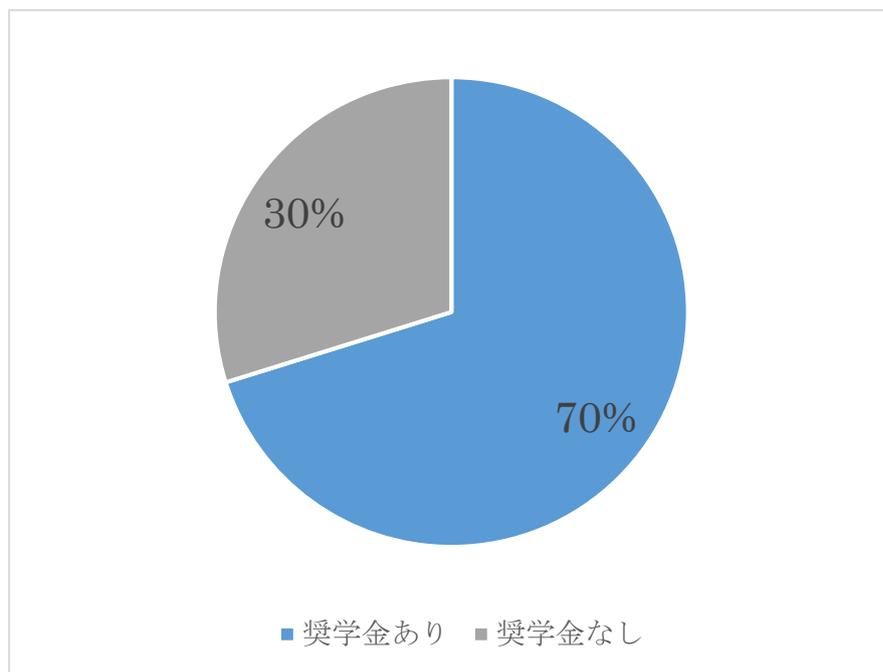
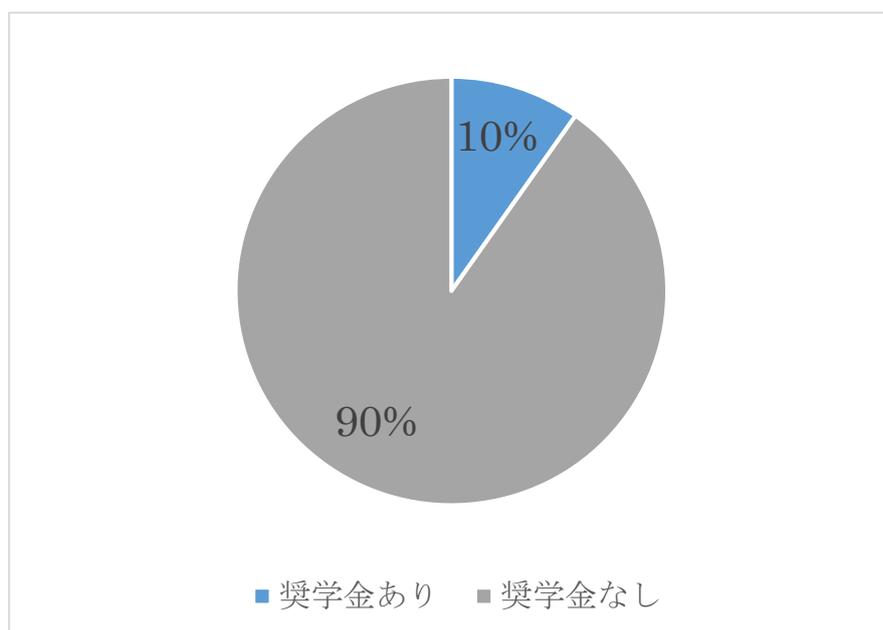


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方がはるかに受給率が高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19. 長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数 (人)	留学者合計(人)	奨学金受給率
交換留学	269	391	68.8%
DDP	0	2	0%
休学留学	18	105	17.1%
自由留学	9	155	5.8%
長期インターンシップ	0	43	0%
合計	296	696	42.5%

⑩2020 年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行うことが必要です。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うこととなります。そのため、2020年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2021年度または2022年度に行われることとなります。

2020年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2023年3月31日現在以下のとおりとなっています。

Table 20. 2020年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況 (2023.3.31現在)

	単位認定済 (人)	単位認定未済 (人)	合計 (人)	単位認定実施率
交換留学	125	59	184	67.9%
休学留学	8	8	16	50.0%

JASSOの奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。ただし、留学先で取得した単位を本学の単位として認定する手続きをしない学生も一定数います。

3. 学部（短期留学）

ここでは、学部生の短期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別短期留学者数

短期留学の参加者数を留学種類別に見てみます。

短期 Table 1 留学種類別留学者数

留学種類	人数
ショートビジット	626
スタディツアー	65
短期インターンシップ	6
短期語学研修	24
短期留学者総数	721

②学部別・留学種類別短期留学者数

学部ごとの参加者数は以下の通りです。

短期 Table 2 留学種類別・学部別短期留学者数

留学種類	言語文化	国際社会	国際日本	合計
ショートビジット	291	313	22	626
スタディツアー	27	30	8	65
短期インターンシップ	1	5	0	6
短期語学研修	13	10	1	24
合計	332	358	31	721

学部別では、国際社会学部の参加人数が一番多くなっています。

③学年別・留学種類別短期留学者数

学年別の参加人数は以下の通りです。

短期 Table 3 留学種類別・渡航時学年別短期留学者数

留学種類	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
ショートビジット	258	260	85	23	626
スタディツアー	35	25	3	2	65
短期インターンシップ	2	0	2	2	6
短期語学研修	5	10	5	4	24
合計	300	295	95	31	721

学年別では、1年生の参加人数が一番多くなっていますが、ショートビジットへの3年生、4年生での参加人数が例年よりも多くなっています。

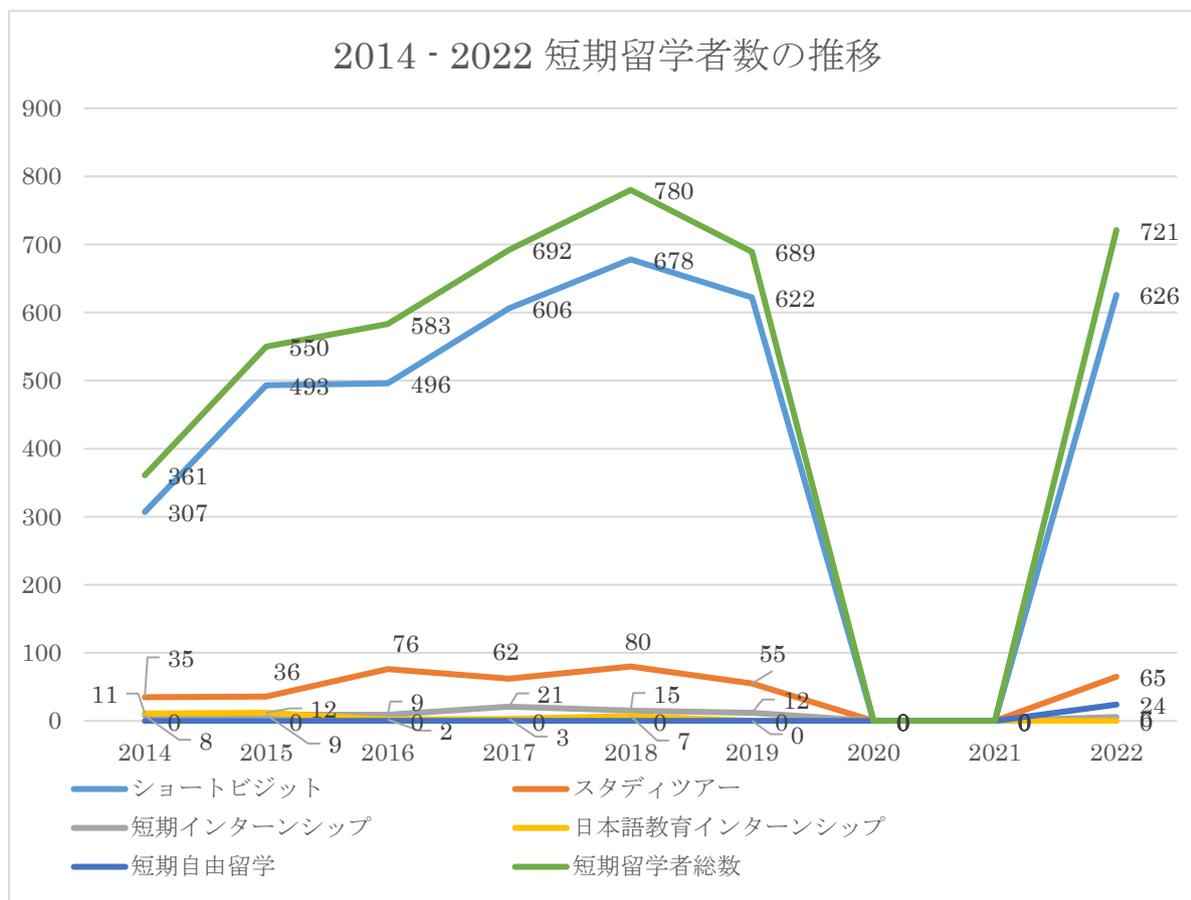
④留学年度別・留学種別短期留学者数の推移

短期 Table 4 (再掲) 留学種別・年度別短期留学者数

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0	0
短期語学研修	-	-	-	-	-	-	-	-	24
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721

2022 年度より、「短期語学研修」(個人的に短期留学したもの)という分類を設け、大学で把握している範囲で実績をカウントしています。短期派遣全体では、コロナ前の水準に戻りつつあります。

短期 Table 5 (再掲) 留学種別・年度別短期留学者数推移



2020 年度、2021 年度は COVID-19 のパンデミックにより、短期留学の現地派遣は実施されず 2 年間、実績なしの状態が続きましたが、2022 年度は現地渡航を再開し、総数では、留学白書の作成を開始した 2014 年度以降では、二番目に多い数字となりました。

⑤留学先地域別・留学種類別短期留学者数

短期留学者を地域別・種類別にみると、多い順にヨーロッパ、北米、東南アジアとなっています。

短期 Table 6 留学先地域別・留学種類別短期留学者数

地域	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インター ンシップ	短期語学 研修	合計
ヨーロッパ	222	1	2	9	234
北米	116	17		2	135
東南アジア	76	28	4		108
中東	64				64
東アジア	36			9	45
南アジア	43			1	44
ロシア・中央アジア	19	19			38
オセアニア	35			2	37
アフリカ	7			1	8
中南米	8				8
総計	626	65	6	24	721

⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化

短期 Table 7 留学先地域別・短期留学者数の経年推移

地域	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ヨーロッパ	107	175	168	209	214	243	0	0	234
北米	65	90	106	120	116	104	0	0	135
東南アジア	60	84	93	112	131	108	0	0	108
中東	20	31	28	42	41	30	0	0	64
東アジア	20	38	62	71	116	53	0	0	45
南アジア	0	9	16	17	33	40	0	0	44
ロシア・中央アジア	16	25	35	39	53	38	0	0	38
オセアニア	12	23	21	51	28	38	0	0	37
アフリカ	7	9	17	18	25	17	0	0	8
中南米	0	9	37	13	23	18	0	0	8
総計	361	562	583	692	780	689	0	0	721

短期派遣の無かった2年間を除くと、短期留学者数は増加傾向にあることが分かります。地域別での傾向では、東アジアへの留学者数が2018年度を比べると半分以下のままととなっています。これは、中国や韓国への渡航が厳しく制限されていたためと思われます。また、アフリカ、中南米への留学者数が減少したままととなっています。

⑦留学先国別・留学種別短期留学者数

短期 Table 8 留学先国別・留学種別短期留学者数

番号	国名	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インター ンシップ	短期語学 研修	合計
1	カナダ	70			1	71
2	アイルランド	68				68
3	アメリカ	46	17		1	64
4	インド	43			1	44
5	イギリス	41	1			42
6	ベトナム	26				26
6	ヨルダン	26				26
8	ドイツ	23			1	24
9	スペイン	19			4	23
10	トルコ	22				22
10	ニュージーランド	21			1	22
12	韓国	21				21
13	オーストリア	18		1	1	20
14	ウズベキスタン		19			19
14	カザフスタン	19				19
14	マレーシア		17	2		19
17	ポーランド	17				17
17	ラオス	16		1		17
19	イラン	16				16
20	オーストラリア	14			1	15
20	タイ	15				15
22	フランス	11		1	2	14
23	シンガポール		11			11
24	フィリピン	10				10
24	モンゴル	10				10
26	チェコ	8			1	9
26	ブルネイ	9				9
26	大韓民国				9	9
29	イタリア	7				7
29	エジプト	7				7
31	ブラジル	5				5
31	台湾	5				5
33	スイス	4				4
33	ブルガリア	4				4
35	キューバ	2				2
35	リトアニア	2				2
37	カンボジア			1		1
37	コロンビア	1				1
37	モロッコ				1	1
	合計	626	65	6	24	721

⑧短期留学者の単位認定状況

短期留学者の単位認定状況は次の通りです。

短期 Table 9 短期留学者の単位認定状況

留学種類	単位認定あり	単位認定なし	合計
ショートビジット	616	10	626
スタディツアー	65	0	65
短期インターンシップ	0	6	6
短期語学研修	0	24	24
合計	681	40	721

ショートビジットは本来単位認定がありますが、単位認定無しの10名のうち7名は、4年生の冬学期の参加者（卒業までに単位認定作業が間に合わないため、単位認定無しでの参加）でした。残り3名は、申請時期が遅れた等の理由によるものです。短期インターンシップについては、2022年度は単位認定ありのプログラムは実施されておりません。また、短期語学研修は私的な渡航の扱いとなるため、単位認定は行われません。

⑨短期留学者の奨学金受給状況

短期留学者の奨学金の受給状況は次の通りです。

短期 Table 10 短期留学者の奨学金受給状況

留学種類	奨学金あり	奨学金なし	合計
ショートビジット	144 (23.0%)	482 (77.0%)	626
スタディツアー	19 (29.2%)	46 (70.8%)	65
短期インターンシップ	0 (0.0%)	6 (100%)	6
短期語学研修	9 (37.5%)	15 (62.5%)	24
合計	172 (23.9%)	549 (76.1%)	721

ショートビジットでは JASSO の海外留学支援制度（協定派遣）を利用していますが、この制度では、重点政策枠を除き、31 日以上のプログラムを支援対象としていることから、過去と比較すると受給者割合は低くなっています（2019 年度は、58.5%の学生が受給）。スタディツアーでの奨学金は、JASSO が 17 名、国際教育支援基金が 2 名となっています。短期語学研修での 9 名は、いずれも大邱大学の韓日共同高等教育留学交流事業に採用された学生です。韓国政府による奨学金を受給してプログラムに参加しました。

4. 大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 538 人（前期課程 325 人、後期課程 213 人）（2022 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別長期留学状況

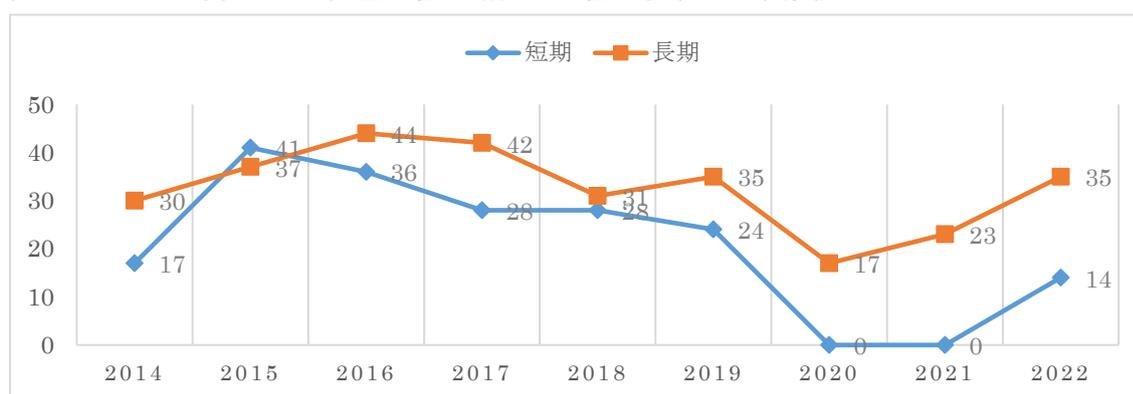
	2021 年度以前 出発、2022 年 度帰国	2021 年度以前 出発、2022 年 度留学中	2022 年度出 発、帰国	2022 年度出発、 2023 年度以降 帰国	合計
交換留学	3	0	2	5	10
自由留学	8	2	1	2	13
長期インターンシップ	3	1	1	2	7
ダブルディグリー（HIPS）	0	0	5	0	5
合計	14	3	9	9	35

②大学院生の短期留学について

院 Table 3. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	3
ショートビジット	5
スタディツアー	0
短期語学留学	2
短期インターンシップ（日本語教育）	4
留学者合計	14

院 Table 1（再掲） 大学院生の留学期間別の留学者数の人数推移



大学院生の留学状況については、長期留学においては 2019 年度と同水準まで回復しました。短期留学については、現地渡航を再開しましたが、留学者数は 2020 年、21 年を除いては、過去最低の水準となっています。短期インターンシップは、国際交流基金と連携して実施している大学連携日本語パートナーズ派遣事業による派遣です。JEP では、支援対象となるプログラムが以前の 8 日以上から、31 日以上に変更になっています。

③大学院生の奨学金受給状況

短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 4. 留学種類別奨学金受給状況

奨学金名称	長期				合計
	交換留学	自由留学	長期インターンシップ	DDP (HIPS)	
日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度	8	0	0	5	13
松下幸之助国際スカラシップ	0	4	0	0	4
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	1	0	0	0	1
日本学術振興会	0	1	0	0	1
台湾教育省台湾奨学金	0	1	0	0	1
チェコ政府奨学金	0	1	0	0	1
NAWA ポーランド政府奨学金	0	1	0	0	1
奨学金なし	1	5	7	0	13
留学者合計	10	13	7	5	35

2022年度は交換留学に参加した10名のうち8名がJASSO、1名が民間財団の奨学金を受給して留学しています。各国政府による奨学金は、大学院レベルに対して支給されるものも多く、2022年度は3名が各国政府の奨学金を得ています。また、長期インターンシップでは奨学金なし、となっていますが、在外公館派遣員などで海外渡航するものもあり、現地で報酬を得ているケースもあります。2022年度では、7名中5名が在外公館派遣員として各国の日本大使館等で勤務しています。

5. オンライン留学の状況

2022年度は、短期渡航を含めて全面的に現地派遣を再開しました。ただし、国によっては厳しい入国制限を設けているところや、ウクライナ情勢により外務省が発出する危険レベルの引き上げがあったりするなど、渡航できない留学先もありました。そうした中で、日本国内から現地の講義を受講する、いわゆる「オンライン留学」を選択する学生も少数ながらもいました。ここでは、オンライン留学の実績について記載します。

実渡航を伴う留学とオンライン留学を合わせた人数（学部、大学院の合計）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
実渡航を伴う留学者数	735	731	1,466	3,606
オンライン留学者数	0	12	12	
合計	735	743	1,478	

①セメスター単位でのオンライン留学

交換留学のうち、2022年度に協定校にオンライン留学を実施した人数は届け出ベース（※）で21名となっています。そのうち12名が完全にオンライン留学（現地渡航なし）、9名は、オンライン留学と実渡航の両者を経験しています。現地渡航を伴うハイブリッド型の留学の場合は、データ集計上は実渡航としてカウントしています。

※2023年度3月の国際マネジメントオフィス留学部会にて承認された分までをカウント

オンライン受講者の協定校の所在先国ごとの人数

No.	国名	完全オンライン (実渡航なし)	ハイブリッド (実渡航あり)	合計
1	ロシア	1	8	9
2	中国	5	1	6
3	台湾	3	0	3
4	インドネシア	1	0	1
5	フィリピン	1	0	1
6	ベトナム	1	0	1
合計		12	9	21

ロシアについては、ウクライナ侵攻が開始されてから、外務省が発出する海外安全情報において危険レベル3に引き上げられたことにより、退避を余儀なくされ、帰国後にオンライン受講に切り替えた学生が多く発生しました。ロシア以外の国・地域では、COVID-19の影響により、現地渡航せずに、日本国内でオンライン受講することを選択したものです。

V. 2022 年度学部卒業時点での留学状況について

2022 年度（3 月）には、656 名の学部生が卒業しました。656 人の在学中の留学状況をまとめると以下ようになります。（オンライン留学もカウントしています。）

卒業生（外国籍学生を含む）

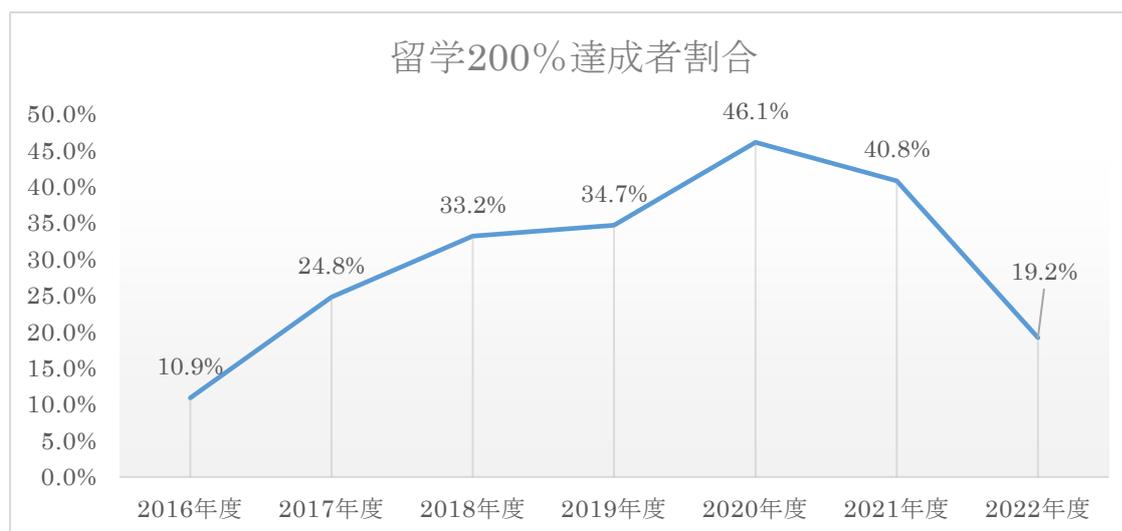
留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	248	126	19.2%
1 回	282		
2 回	92		
3 回以上	34		
合計	656	126	19.2%

※休学を伴わない私的な旅行等は対象外としています。

卒業生（日本国籍保持者のみ）【参考】

留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	217	125	20.2%
1 回	276		
2 回	92		
3 回以上	27		
合計	618	125	20.2%

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合は、2017 年度以降 24.8%、33.2%（2018）、34.7%（2019）、46.1%（2020）、40.8%（2021）と推移し、2022 年度は 19.2%となりました。前年度から大幅に低下していますが、COVID-19 のパンデミックの影響が如実に表れていると言えます。



①卒業生の在学中の長期留学回数（実渡航のみ）

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学 経験者数	短期のみ 経験者数
1	285	22	263
2	75	38	37
3	23	16	7
4	5	4	1
合計	388	80	308

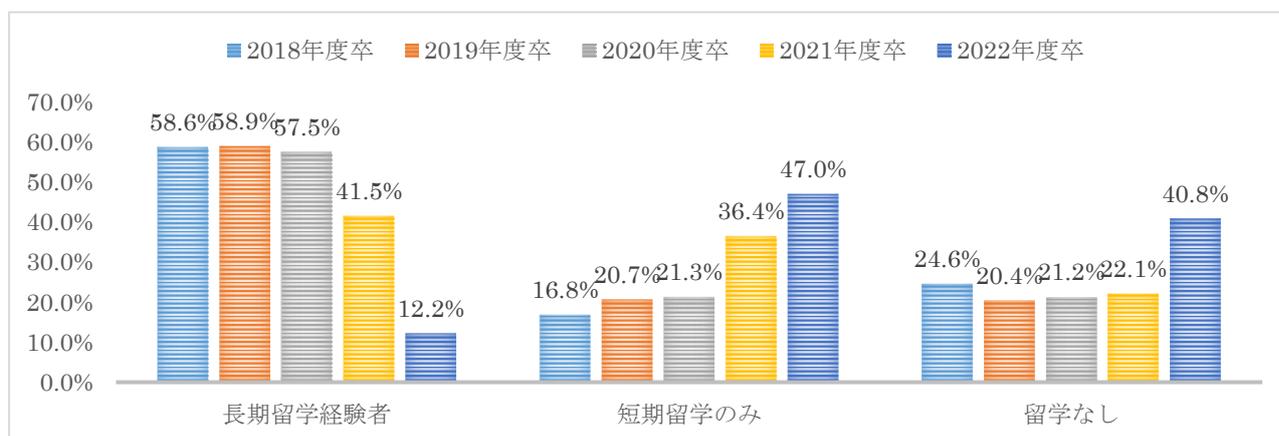
留学（実渡航のみ）をした388名のうち20.6%にあたる80名が長期留学を経験しています。2020年度は、この割合が72.9%、2021年度は53.3%でしたので、2022年度3月卒業者については、例年に比べると長期留学経験者が大幅に減少したことが分かります。全体の卒業者での割合でみると、卒業者656名のうち80名、12.2%が長期留学経験者の割合となります。前年度以前に比べると、長期留学を経験した割合が大幅に低下しました。COVID-19パンデミックの影響と思われます。

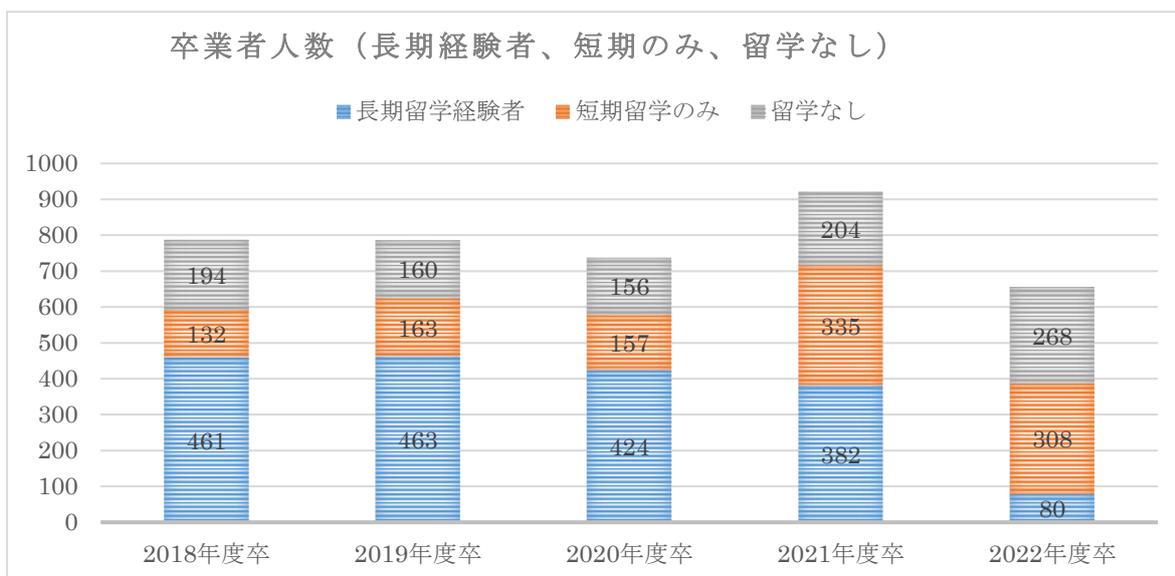
②2018～2021年度と2022年度の卒業生の留学状況の比較（実渡航のみ）

2018～2021年度、および2022年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業者数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業者数に対する割合を比較します。特筆すべきは、2022年度卒業生の長期留学経験者割合の大幅な減少です。短期留学のみの学生割合も増えていますが、同時に留学なしの割合も大幅に増えています。2022年度の卒業生は、2019年度に入学した学生が多いと思われそうですが、2020年度、2021年度の2年間、留学の機会が大幅に制限されており、COVID-19の影響を一番受けた年代だと思われそうです。

留学種類	2018年度卒	2019年度卒	2020年度卒	2021年度卒	2022年度卒
長期留学経験者	461 (58.6%)	463 (58.9%)	424 (57.5%)	382 (41.5%)	80 (12.2%)
短期留学のみ	132 (16.8%)	163 (20.7%)	157 (21.3%)	335 (36.4%)	308 (47.0%)
留学なし	194 (24.6%)	160 (20.4%)	156 (21.2%)	204 (22.1%)	268 (40.8%)
合計	787 (100%)	786 (100%)	737 (100%)	921 (100%)	656 (100%)





卒業生数については、2018年度から2020年度にかけて、700名から800名の間だったものが、2021年度は、900名を超えました。本学では長期留学のために卒業を1年延ばす学生が多いのが特徴ですが、2021年度卒では長期留学に行けなかった学生が多く、4年で卒業するものが増えたためと考えられます。2022年度卒では、逆に卒業生数が大きく減少しました。2021年度に前倒しで卒業した分が減少したと考えられます。

人数ベースで見ると、2019年度卒との比較では、長期留学経験者の人数がおよそ5分の1まで減少しており、COVID-19のインパクトの大きさを物語っています。

③2022年度（2023年3月）の卒業生の入学年度別の留学状況（実渡航のみ）

2022年度卒業生の入学年度別の留学状況は以下の表の通りです。

入学年度	人数	留学なし	留学1回	留学2回	留学3回以上
2014年度	1	0	1	0	0
2015年度	3	2	1	0	0
2016年度	9	3	5	0	1
2017年度	32	11	10	8	3
2018年度	244	66	111	45	22
2019年度	352	173	155	22	2
2020年度	5	4	1	0	0
2021年度	10	9	1	0	0
合計	656	268	285	75	28

2020年度、および2021年度入学者は、3年次編入の学生です。

2019年度入学者は4年間で卒業した学生で、留学回数1回の学生が多いのと同時に、留学しなかった学生も同数程度います。2018年度入学者は5年間で卒業した学生で、留学なしの学生は少なくなっていますが、留学経験者の中でも留学回数は1回の学生が一番多くなっています。

VI.SGU 指標 (2023年6月 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学のSGU構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

文科省定義：

- ・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。
- ・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数(A)については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数(D)は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数(5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	目標値									
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)(人)	119	393	699	750	845	972	847	332	204	741	1486
うち女性(人)				578	607	738	590	264	156	538	
うち学部(B)(人)	119	386	669	723	825	948	837	332	203	733	1460
うち女性(人)				558	593	722	583	264	155	528	
うち大学院(C)(人)	0	7	30	27	20	24	10	0	1	8	26
うち女性(人)				20	14	16	7	0	1	8	
全学生数(D)(人)	3979	3960	4019	3989	3988	3972	3982	3903	4318	4144	3830
うち女性(人)				2589	2597	2597			2785	2658	
うち学部(E)(人)	3667	3654	3737	3685	3670	3694	3693	3639	3801	3606	3494
うち女性(人)				2427	2432	2431			2473	2338	
うち大学院(F)(人)	312	306	282	304	318	278	289	264	517	538	336
うち女性(人)				162	165	166			312	320	
割合(A/D)%	3.0	9.9	17.4	18.8	21.2	24.5	21.3	8.3	4.7	17.9	38.8
割合(B/E)%	3.2	10.6	17.9	19.6	22.5	25.7	22.7	8.9	5.3	20.3	41.8
割合(C/F)%	0	2.3	10.6	8.9	6.3	8.6	3.5	0	0.2	1.5	7.7
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)(人)	32	23	25	40	41	30	35	15	22	35	52
割合(G/F)%	10.3	7.5	8.9	13.2	12.9	10.8	12.1	5.7	4.3	6.5	15.5
日本国籍を有する正規学生数(全学生数)と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。											

2022年度のフォローアップ調査票では、留学者数の内訳に関して、女性の人数だけでなく、「実渡航」「オンライン」「ハイブリッド」に分けて報告した。

本学定義（算出方法）：

単位取得を伴う海外留学経験者数（A）について

- ・①2022 年度出発、帰国の学部生：単位認定をした日本国籍の交換留学、休学留学、ショートビジット、スタディツアー、日本語教育インターンシップの人数
- ・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える（日本国籍保持者）
- ・③②から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているものを差し引く。

大学院（C）について

大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学、国際機関インターンシップ、大学院生向け TUFUS Joint Education Program、日本語教育インターンシップ、ショートビジット、スタディツアーの人数

- ・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える。
- ・③2 から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているものを差し引く。

教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）について

単位取得の有無は問わない。

3ヶ月以上派遣された日本国籍の大学院生（交換、自由、DDP（HIPS）、長期インターン）をカウントする。

◆SGU 指標：1. 国際化関連 （2）流動性 ②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

- ・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。
- ・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注3) 日本人学生（A）の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注4) 全学生数（B・D）は学校基本調査の定義を引用（2021年5月1日時点・非正規課程の学生を含む）。

1. 国際化関連 (2) 流動性											
②大学間協定に基づく交流数											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	目標値									
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	819	950	1093	1069	310	344	1037	1672
うち女性				612	664	854	753	246	258	751	
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	566	676	737	690	161	135	690	1442
うち女性				444	477	611	477	134	106	499	
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	232	258	324	360	147	206	327	200
うち女性				155	180	222	264	111	150	236	
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	18	12	23	10	0	1	5	26
うち女性				12	6	17	7	0	1	5	
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	3	4	9	9	2	2	15	4
うち女性				1	1	4	5	1	1	11	
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4721	4690		4414	3903	4318	4144	4671
(うち女性)				3097	3051				2785	2658	
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	17.3	20.3		25.1	7.9	8.0	25.0	35.8

本学定義 (算出方法) :

大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計し、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出。これに単位認定のなかった夏学期のショートビジット参加者で日本国籍を持つ学生を加える。

うち単位取得を伴う大学院生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジット、協定校へのJEP(非協定校除く)、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

うち単位取得を伴わない大学院生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える。

◆独自指標

(指標3) 留学 200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍及び単位取得の有無は問わない。

(指標4) 本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。（オンライン留学も含む）

大学独自の成果指標と達成目標											
<定量的>											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
(指標3) 留学 200%達成者 (%)	0	1.0	11.1	10.9	24.8	33.2	34.7	46.1	40.8	19.2	90
(指標4) 本学学生の 全世界的展開 (人)	447	751	1039	1111	1613	1656	1582	406	525	1478	1740
うち北米	44	112	134	156	216	200	179	43	66	237	147
うち欧州	183	254	374	361	536	526	559	135	229	566	462
うち中ア/中央アジア	66	71	81	89	119	114	115	34	44	69	178
うちアフリカ	1	14	20	29	55	56	56	14	10	34	50
うち中近東	20	43	49	46	81	72	163	25	35	87	145
うち東南アジア	45	114	151	156	256	276	239	69	54	195	205
うち南アジア	1	21	24	20	32	56	64	6	6	56	113
うち東アジア	69	83	138	145	168	222	166	41	61	125	256
うち中南米	11	15	32	70	70	81	77	28	16	44	134
うちオセアニア	7	24	42	39	80	53	64	11	4	65	50

資料編